

知行院便り

発行／宗教法人知行院 東京都世田谷区喜多見 5-19-2 TEL 03-3417-3456 FAX 03-3417-3000



仙台で震災七回忌法要

坂本住職はさる三月十一日、仙台市において開催された、全日本仏教青年会主催の東日本大震災七回忌法要に、同青年会の歴代理事長として参加し、震災で亡くなった方々の供養を行いました。



七宝塔婆は、七日ごとにお墓参りをして、お参りのたびに、土を擦りつけて文字を消すようにします



それから七宝塔婆ですが、先ほど、故人は亡くなつてから、七日ごとにひとつひとつ階段を上るように修行を続けるとお話ししました。

私たちは、その七日七日に修行している故人に対して、こちらの世界にいる我々が功德を届けるため、七日ごとにお墓参りをするのが務めです。そして七宝塔婆は、そのための道しるべなのです。

七日ごと七回、お墓参りをするわけですが、そのお参りのたびに、この七宝塔婆に書かれた文字を、土を擦り付けて、一本ずつ消していくのです。お墓参りは、故人が仏さまになつていただくため、とても大切なことです。

ぜひ故人のため、そして生きていく皆さんのためにも、お墓参りを大切にしてください。



法要の前日には、全日本仏青年会全国大会も行われ、「慈悲の実践」東日本大震災から六年、共に歩む仏教」とのテーマのもと、シンポジウムが行われています。震災以降、各仏教教団や寺院がそれぞれの立場から取り組んだ被災地支援活動について学び、議論し、未来の仏教のあり方について話し合いました。

坂本住職は、三月二十九日から四月一日まで、タイ・バンコクでWFBY・世界仏教徒連盟の特別行事に日本代表の一員として参加しました。今回は昨年十月十三日に八十八歳で崩御され、宮殿内にお祀りされているプミポン国王の特別弔問と、新国王に指名されたタイ国仏教界最高位の大僧正に拜謁するための訪タイとなりました。法務の都合で実質一泊二日の強行日程でしたが、住職の十五年間の国際仏教交流活動に対する招聘でしたので、感謝と感激至極の貴重な体験となりました。

プミポン国王の特別弔問へ



ごあいさつ

知行院住職 坂本観泰

このところ、洋の東西を問わず、世界のあちらこちらで不穏な状況が続き、毎日のように悲惨なニュースを耳にします。空爆によって多くの一般市民が犠牲になるといったニュースもたびたび聞くようになり、そのたびに胸が締め付けられる思いになります。また、お隣の国からは、いつ何時ミサイルが飛んで来るかも知れないと、日本国中が大騒ぎで、絵空事では済まない状況です。

人が争いがみ合うにはそれなりの原因や事情があるのでしょうが、傍から見ますと、どうしてそんなことになってしまったのだろうと心が痛みます。

宗祖伝教大師のお言葉を、弟子の光定（後の別当大師）がまとめた「伝述一心戒文」という書物の中に、「怨みを以つて怨みに報せば、怨み止まず。徳を以つて怨みに報せば、怨み即ち尽く……」という一文があります。

意味は「怨みに対して怨みに対応している限り、恨みが止むことはない。怨みに対して徳（善の心）をもって対応するならば、怨みはつきるのである」というお言葉です。私は、世界各地から流れてくる悲しいニュースを耳に、また目にするたびにこの伝教大師様のこの言葉を思い出します。

「徳」をもってと言われると大げさに聞こえますが、ほんのちよつとの心の余裕、相手を思いやる心、我先にはなくお先にどうぞ、そんな心をみんなが持ち合わせればよいのです。

そのちよつとがなかなか我々凡夫にはできないのですが、日々精進して幸せな毎日を送りたいものです。

〈写真〉

知行院裏堂に安置されている虚空蔵菩薩像。あらゆる福德と智慧を授けてくださる仏さまです。

変わる知行院の境内

——知行院の未来のために

——知行院の山門の横にあった建物が無くなって、更地になりましたね。

住職 これまでは、あそこには住宅とお店がありました。お寺がお貸していた土地でした。それが、昨年契約期間が終わったので、お寺に戻していただいたというわけです。

——更地にしたのは、駐車場などに利用する予定なのでしょいか？

住職 駐車場にする予定はありません。境内を整理する計画があるのですが、現在更地になっている場所には、参道と山門を移設する予定になっています。

今年の秋くらいから境内整理が始まりますが、それには二つ理由があります。

ひとつは、現在のお寺の入口から広場のほうにかけて、都市計画道路がつくられる計画があるということです。この道路は、最終的には、上野毛二丁目から喜多見九丁目までつながる四車線（片側二車線）の道路で、既に一部の道路はできあがっています。



工事が始まると、境内のかなりの面積が収用されることになってしまいます。特に、現在の参道の入口部分に道路がかかるのは確実で、そうなる参道が無くなってしまいうのです。

まだ道路の再着工時期は決まっていますが、いつ工事がはじまっても、対応できるように境内を準備しておきたかったということです。

——二つ理由があるということですが……。
住職 もうひとつの理由は、山門自体が、かなり傷んできているということです。

この山門は、知行院で唯一明治以前に建立されたものです。現在は、瓦葺きの屋根の建物ですが、もともとは、茅葺きにトタンをかけた山門でした。昭和三十年代くらいまではトタン葺きだったので、憶えている方もいると思います。現在の山門は、構造はそのトタン葺き時代のままで、トタンのかわりに瓦を葺いたものです。

実は、前の本堂ももともとは茅葺きだったので、茅葺きから瓦葺きに替えることが難しくなっています。茅葺きから瓦に換えたといういきさつがありました。ところが、軽い茅葺きから重い瓦葺きに換えたことで、建物の構造が耐えきれずに、あちこちがゆがんでしまい、結局、建て替えをすることになりました。

山門も同じことで、建物の構造は、茅葺きにあわせた強度なのにもかかわらず、瓦を載せているために、あちこちに無理が出て来ているのです。その結果、屋根がゆがんでしまっていますし、屋根の袖にあたるところが腐ってしまいました。耐震性についても不安があり、改修工事をしなければならぬ時期に来ているのです。

前述のように都市計画道路の問題もあり、そこで山門の移設と改修工事を同時にやってみようという事になったのです。——そういうことだったのですね。

住職 実は昭和の最初の頃に、水道道路ができた時にも、知行院は、土地をとられて境内が狭くなったようです。狭くなるだけではないですが、今回は、参道自体が無くなるという可能性があります。その意味では、借地を戻していただいたというのが、ちょうどいいタイミングでした。

——工事はいつごろから始まるのでしょうか？
住職 まずは、今年中に境内と参道の境界にある白樫の垣根を、水道道路側に移設する予定です。それから、現在更地になっているところの、参道予定地の土木工事も始まります。

来年の秋くらいには、山門を修理するためいったん解体する予定です。最終的には再来年の三十一年に整備が終わると思います。

参道が移設されることで、駐車場も広がります。おそらく十五、六台分のスペースは増えるんじゃないでしょうか。

現在、こうした計画が進んでおりますので、ご理解をいただければと思います。

（聞き手 編集担当 薄井秀夫）



教えて、住職さん！ 第二回 位牌あれこれ

お寺のこと、仏教のこと、知ってるようでよく解らないことを、ご住職にインタビューして、教えていただきます。第二回は、位牌について解説していただきました。

（聞き手 編集担当 薄井秀夫）

聞き手 位牌について教えていただきたいと思っています。ふつう、お仏壇に安置してある位牌の他に、お葬式の時、祭壇に飾る白木の位牌があると思います。それぞれどういう意味があるのでしょうか？

住職 お仏壇に安置してある、漆塗りの位牌は本位牌（ほんいはい）と言います。白木の位牌は内位牌（うちいはい）と言います。内位牌は四十九日までで、四十九日を終えると本位牌に代えます。

人は亡くなってすぐに仏さまになるわけではなくて、まずは、仏さまになるための修行を始めることとなります。それも七日ごとにひとつひとつ階段を上るように修行をしていくのです。七日間が七回過ぎて四十九日がたつと、修行が完成して仏さまになることができます。

その修行期間は、いわば見習い期間ですね。だから位牌も、仮の位牌ということになります。それで白木の内位牌を使うのです。

漆塗りの本位牌は、位牌の板が蓮の上に乗っています。蓮の上に乗っているのは、仏さまになつた印なのです。仏像は、蓮の花の上に乗っているものが多いでしょう。位牌が蓮の花の上

に乗っているのも、故人が仏さまになつたしるしです。だから位牌をつくる時は、できるだけ蓮の上ののっている形式のものほうがいいですね。

聞き手 白木の位牌は、四十九日までということですが、四十九日法要を終えたら、どうすればいいのですか？

住職 内位牌は本位牌といっしょに、四十九日法要の時に、お寺に持ってきてください。知行院では、内位牌をその後、一年間安置して供養をします。特にお施餓鬼の時には、その位牌を並べて新盆供養をします。

また持ってきてもらった本位牌は、この時、魂入れをします。ここで初めて、故人が仏さまになるのです。生前は、生身の身体で私たちが導いてくれたけど、これ以降、仏さまとなって導いてくれるようになるのです。

聞き手 それから、お墓には、野位牌とか七宝塔婆などを置きますね。

住職 そうですね。知行院では、葬儀の際に、内位牌、野位牌、七宝塔婆を用意します。ただし、野位牌と七宝塔婆については、火葬後すぐに埋

葬する家だけ用意することになります。

最近では、四十九日の後に遺骨を埋葬する家が多いのですが、もともとは、葬儀を終えたら本堂にお参りをして、その足でお墓に行って埋葬するというのが一般的でした。土葬の時代は、ご遺体を早く埋葬しないと腐ってしまいますからね。

土葬が火葬に変わっても、基本的な流れは変わらず、葬儀を終え、火葬場からお寺に戻ってきてお参りをして、それからお墓に行って埋葬するのが一般的でした。四十九日後に埋葬というのは、知行院ではかなり新しい習慣なのです。

知行院の古い檀家さんは、今でもこのやりかたを守っているのです。葬儀当日にご遺骨を埋葬しています。

聞き手 今でも、葬儀当日に埋葬するのですね。
住職 そうなんです。それで、まず野位牌ですが、これは内位牌より少し小さい、やはり白木の位牌です。遺骨を納めてから、墓碑に戒名を刻むまで、この野位牌をお墓の前に安置しておきます。戒名が刻まれるまでの、仮の名札みたいなものです。

（次ページに続く）



お墓に安置された野位牌